

現実には「行政等が状況を把握している家庭」だけでなく
「行政や支援につなげていない家庭」が存在している。



つなぐBANK～フード&グッズ～
事務局長

山本倫子 さん

長崎市、長与町、対馬市、壱岐市、雲仙市の
訪問型支援対象児童等見守り強化事業の
実施団体の事務局、アドバイザーを務める

- 長崎市版こども”宅所”
つなぐBANK事務局長
- 長崎県ひとり親家庭等自立促進
センターセンター長（※長崎県子どもの貧困総合相
談窓口／長崎県にんしんSOS相談窓口など）
- 元・長崎県社会福祉協議会勤務





「こども宅食」における こどもの見守りの視点と相談支援の基本

長崎県子どもの貧困対策統括コーディネーター 山本倫子

直接支援と見守り

直接支援者・・・目標に向かって

①信頼関係を作る

- ・保護者の話を共感的に受け止める
- ・保護者が相談できる存在になる

今回の見守り支援

◎ 何を話せばよいのか

持ってきた食材の内容

次の食材等は何が良いか・天気・体調等

そこから生活の話に入る

相談支援の基本

相談時の姿勢 ※初めての訪問

- どこまで聞いていいのか
- 深刻な話になった場合、どう対応して良いのか
- 自信がないと、聞くことに臆病になる